

報告事項ケ

令和7年度第1回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議の
概要について

令和7年度第1回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議の概要について、
別紙のとおり報告します。

令和7年7月7日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

令和7年度第1回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議の概要について

令和7年7月7日 社会教育課

- 1 日 時 令和7年6月4日（水）午後2時30分から午後4時まで
- 2 場 所 県立倉吉体育文化会館 小研修室2
- 3 出席者 別添のとおり
- 4 会議概要

（1）意見交換

県教育委員会からの諮問「今後の生涯学習のあり方について」（令和6年11月）への答申に向けて、以下の事項について意見交換を行った。

ア 「鳥取県が目指す生涯学習社会」について

教育基本法や第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理（令和4年8月）で示されている「生涯学習の理念や基本的な役割」、「生涯学習の現代的な役割」に加えて、鳥取県の生涯学習の現状を踏まえて、県が今後どのような生涯学習社会を目指すのか議論した。

＜委員からの主な意見＞

- ・人口減少が激しい鳥取県においては、生涯学習が果たしうる役割として「地域コミュニティの基盤としての役割」を強調していく必要がある。
- ・生涯学習講座の参加者は固定化と高齢化が見られる。持続可能な生涯学習をしていくためには、高校生や青年層、30～40代をいかに巻き込むかが大事。また、そのために生涯学習を県民にしっかりと周知していくことが重要。
- ・大学には地域活動に取り組んでいる学生のグループがあるので、若い方に地域に入ってきてもらうことを存分に活用されてはどうか。
- ・公民館の講座等に若い人が来られないのはどこも同じ状況。講座を企画運営する公民館職員の知識や情報不足も問題であり、人材育成が必要だと思う。
- ・今は核家族が多く、保護者は子どもを置いて出かけることはできない。学びの場に参加できる機会や環境を作らなければ参加者は増えない。
- ・生涯学習自体を理解している現役世代がどこまでいるかも問題。教育委員会や公民館が行う講座や個人が受講料を支払って受講する講座、動画配信サービスの利用、図書館や博物館に行くのも生涯学習である。生涯学習を分かりやすく細分化・具体化した鳥取県独自の考え方を示すことが必要ではないか。
- ・行政が作成する資料は言葉が硬い。生涯学習についても、「学習」というと硬いものではないかと捉えてしまう。分かりやすい、やさしい言葉で示すことが必要ではないか。
- ・生涯学習は全ての年代が対象。子どもの頃から何かを学ぶ、知る、体験することが楽しいと感じる気持ちを育てることが大事。
- ・企業でも生涯学習のメニューを用意しているので活用していただきたい。多くの企業が行っている会社訪問も生涯学習の一つになるのではないか。また、広報手段として新聞の紙面で情報提供したり、後援をしたりという形でも企業側はサポートすることができる。
- ・県の役割の一つとして、地元企業やNPO、大学等の教育機関と連携する術だったり、市町村や各団体の繋がりを俯瞰して見ることができるようなシステムを整えたりすることを答申の核としてはどうか。

イ 生涯学習を通して一人ひとりが豊かな人生を育むための方策について

諮問の「検討の視点1 生涯学習を通して一人ひとりが豊かな人生を育むための方策」を検討するにあたり、生涯学習の分野とその他の分野との連携促進について議論した。

＜委員からの主な意見＞

- ・インプットの学習だけだと自分の中で完結してしまう。インプットとアウトプットをセットにすることで繋がりも生まれる。
- ・アウトプットも大事なこと。例えば地域にどう貢献できるかなど、アウトプットをどう生かしていくかという観点も答申に盛り込みたい。
- ・学校では特別支援学級が充実しており、子どもたちは個々に合った教育を受けているが、社会に出たときにうまくいかないこともある。茨城県の「地域応援プログラム」では「発達障がいへの理解」を現代的な地域課題として取り上げており、社会全体の理解につながると思う。また、地域課題として設定することで、解決するために連携が促進されると思う。

- ・個人の学びたい、知りたいという意欲によってつながりが広がると思う。例えば、一つのキーワードに対し「この講座に行けば関連する内容を学ぶことができる」というような、キーワードに紐づけされている様々なものが可視化されるとよい。
- ・インターネットやポスター、ロコミ等、あらゆる情報の中から個人が学びたいことや知りたいことを選ぶ時点で生涯学習につながっていくと思う。しかし、せっかく検索サイトにたどり着いても、そのサイトが魅力的でなかったり、欲しい情報が得られなかったりすると残念だと思う。県が提供している「とっとり県民学習ネット」は改善の余地が大いにある。
- ・個人が欲しい情報があったときに、必要な箇所につないでもらえるようなコーディネーターが県にいたらよいと思う。今は相談を受けた職員が該当の部所につないでいるレベルなので、仕組みとして設けていただきたい。

ウ 「生涯学習推進施策等に関する調査」及び「生涯学習に関する意識アンケート」の実施について

答申の参考とするために実施を予定している調査及びアンケートの質問項目等について議論した。

＜委員からの主な意見＞

- ・「生涯学習に関する意識アンケート」は県民参画電子アンケートを活用するとのことだが、対象の会員数が630名と少ない。県民参画電子アンケートだけでなく、他にもアンケートを実施した方がよいのではないか。
- ・「生涯学習に関する意識アンケート」で「生涯学習という言葉聞いたことがあるか」という問に対し、「聞いたことがある」と回答した人には、「生涯学習とはどんなものをイメージするか」も聞いてみてはどうか。例えば、図書館や博物館に行く、講座を受講する等、これまで意識はしていなかったことも実は生涯学習なのだ、という気付きにつながると思う。
- ・「生涯学習に関する意識アンケート」は答申の参考にするだけでなく、活用までを視野に入れた内容としてはどうか。全年代に対し何に興味があるかを調査し、例えば20代はSNS、30代は子育て、40代は経営や労務、50代は退職後のことや健康など、各年代が学びたいと思っていることと合致した取組ができれば、全年齢に関わりたいと思えるような生涯学習がつくれると思う。

(2) 事務局報告

「とっとり子育て親育ちプログラム」の改訂について

令和7年3月に改訂した「とっとり子育て親育ちプログラム」について事務局から報告した。

(事務局の報告概要)

- ・親同士が楽しみながら家庭教育について学ぶことができる参加型プログラム「とっとり子育て親育ちプログラム」の第2改訂版を作成した。
- ・乳幼児期のスマホ・タブレットの使い方について考えるプログラム等、新たに3つのプログラムを追加した。また、各プログラムに関連する国や県の情報を閲覧することができるよう、適宜QRコードを掲載した。
- ・県ではプログラムをより効果的に実施できるよう、ファシリテーターを養成し、保護者会やPTA研修会等に無料で派遣している。

令和7年度第1回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議名簿

氏名	所属・職名等	備考
赤嶋美和子	倉吉市立関金小学校長	
池田 緑	鳥取県子ども読書アドバイザー	
植田 紀子	株式会社新日本海新聞社編集制作局報道部長	
大堀 貴士	認定特定非営利活動法人ハーモニカレッジ理事長	
川口有美子	公立鳥取環境大学環境学部准教授	会長
木村 佳奈	南部町地域おこし協力隊	欠席
小林まゆみ	鳥取県連合婦人会	欠席
清水 秀満	鳥取市美保南地区公民館長	副会長
清水まさ志	鳥取大学地域価値創造研究教育機構准教授	欠席
高尾 裕子	鳥取県PTA協議会長	
谷口 千春	鳥取大学附属幼稚園副園長	
中田 寛	倉吉市教育委員会教育長	
福田 範子	日南町教育委員会事務局教育課総括室長兼生涯学習室長	
森脇 昇	日本ボーイスカウト鳥取連盟副理事長	